

## 多職種連携のためのアカデミックリテラシー

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野、人間科学科哲学分野、人間科学科法学分野、人間科学科体育学分野、情報科学科数学分野、情報科学科医学統計情報学分野、物理学科、化学科、生物学科、外国語学科英語分野、附属図書館、医学教育学講座、教養教育センター		
担当教員	藤澤 美穂 准教授、香川 由美 助教、林 研 准教授、三浦 康宏 助教、廣瀬 清英 講師、佐々木 亮平 助教、江尻 正一 教授、長谷川 大 准教授、高橋 史朗 教授、小野 保 講師、奥村 健一 准教授、小松 真 講師、小田 泰行 講師、中島 理 教授、東尾 浩典 准教授、吉田 潤 講師、三枝 聖 准教授、内藤 雪枝 助教、菅 孔太郎 助教、柳谷 千枝子 准教授、松田 竜宙 助教、Jonathan Levine-Ogura 助教、Robert Ken Asano 助教、図書館員、高田 亮 教授、岸田徹非常勤講師		
対象学年	1	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 16 時間 演習 16 時間
期間	前期		

## ・学修方針（講義概要等）

現代の社会では、医療技術の複雑化に対応し、また超高齢化に伴う全人的医療ケアを提供するために、専門職間の連携・チーム医療の重要性が増している。こうした理由から近年、医療系分野を中心に多職種（専門職）連携教育（IPE: Interprofessional Education）が広がりを見せ、複数の専門職が集い、連携・協働の質、ケアの質を向上させるために、共に学び、互いに他から学び合い、お互いについて学ぶこと、が重視されるようになってきた。

本科目は、このようなチーム医療の基礎を築く IPE の入門コースであり、3 学年における「チーム医療リテラシー」および 6 学年（看護学部は 4 学年）に予定されている 4 学部合同セミナーに連結するものである。そのため、本科目の目標は、こうした学びに必要な問題解決能力の育成とアカデミックリテラシー（大学で学ぶための諸能力）の修得に置かれる。具体的には、4 学部合同の少人数グループを学びの単位とし、アクティブラーニングの要素を取り入れながら問題解決型学習を行うとともに、問題解決にとって有用なアカデミックスキルを修得するコースを設定し、次の二種類の能力の基盤づくりを行なう。一つは、これからの専門職に求められる能力（医療人としての自覚、他職種の役割理解・尊重、チームワーク、役割と責任、課題を見だし解決に導くための協働と自己主導型学修）、もう一つは、専門知識を修得し、研究能力を身につけていくために必要な一般的学修能力（論理的思考、論理的文章作成、コミュニケーション・スキル、プレゼンテーション・スキル、情報検索スキル）である。

本科目の目標と内容・形態の対応関係は以下になる。（1）専門職に求められる問題解決能力の養成については、まず医療分野等に関するテーマについて WS（ワークショップ）形式の PBL（プロジェクト型学習）を実施し、KJ 法・二次元展開法といった課題解決技法を修得する。この PBL-WS では、教養教育センター教員全員がチューターとして学生をサポートする。（2）多職種連携を担う医療人として必要な態度の養成については、IPE 講義を通じ、医療職の立場、地域医療の観点、患者・当事者の立場から、多職種連携の実際についての理解促進を図る。（3）一般的学修能力の養成については、考える技術（クリティカルシンキング）、書く技術（ロジカルライティング）に関する学修を行う。また論文検索システムを使用した図書館演習を行う。

（1）（2）は（3）の学びの必要性を動機づけ、また（3）はたんなる座学ではなく（1）（2）にも通じる協働の姿勢に基づいて実施される。つまり、本科目の全プロセスは有機的に連関している。したがって、講義には（1）（2）（3）で学ぶことの結びつきを意識しながら、参加してもらいたい。

・教育成果（アウトカム）

考える技術（クリティカルシンキング）、書く技術（ロジカルライティング）を通じて論理的な考え方や論理的な表現方法の基本を修得する。それらとマインドマップ、KJ法と二次元展開の各手法を応用することで、他者の発言や文章を統合的に再構成して理解し、自分の考えを整理して分かりやすく伝えることができるようになる。文献検索演習によって、適切かつ正確な情報を検索・収集するスキルが身につく、自分の考えや表現に説得力と奥行きを与えることができるようになる。IPE講義を通じ、医療者の立場、地域医療という観点、そして患者・当事者の立場から、多職種連携の実際を理解し、そこに関与する自分自身についてのイメージを明確にする。

PBL-WSをグループで行なうことで、医療人としての意識が高まり、他職種の役割や責任および考え方を理解し、尊重する態度が身につく。また、課題解決に向けたチームワークの重要性の意識、各自の役割に対する責任感が培われ、チームに貢献するためには、自己主導型学修が大切であるという認識の形成につながる。

以上によって、プロフェッショナルとしての意識が高まるとともに、医療に関する問題を解決するための総合的な力が養われる。（ディプロマポリシー：1、2、3、5、8、9）

・到達目標（SBO）

1. 発言（文章）に含まれる議論の構造を読み取り、隠れた前提を明示して、根拠の妥当性を批判的に検討することができる。
2. 主張・根拠・結論を備えた文章作成ができる。
3. レポートの作成方法を説明することができる。
4. 必要な情報を図書館やインターネットを利用して収集できる。
5. 調べた情報に根拠づけができる。
6. KJ法・二次元展開法を使用して問題点を抽出・整理し、解決策を考え出して、図等を用いてそれらを分かりやすく提示することができる。
7. マインドマップを用いて思考プロセスを可視化し整理することができる。
8. 医療者の立場、患者・当事者の立場からの多職種連携について理解し、要点を説明することができる。
9. 地域医療における多職種連携の実際を理解し、地域包括ケアに関与するために必要な態度を列挙できる。
10. チームで意見交換することの重要性を説明できる。
11. 医療に関わる多様な職種について説明できる。
12. 個々の患者・生活者に寄り添い、身体的、心理的、社会的特徴の把握に努め、その思いを受け止めて患者・生活者を全人的・総合的に理解することができる。

・ 講義日程

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/13	月	1	心理学・行動科学分野 哲 学 分 野 法 学 分 野 哲 学 分 野 心理学・行動科学分野 体 育 学 分 野	藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授 廣瀬 清英 講師 三浦 康宏 助教 香川 由美 助教 佐々木 亮平 助教	<p>ガイダンス [大堀記念講堂]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームで考え、活動することの重要性を説明することができる。</li> <li>2. 多職種連携が重視されるようになった歴史的・社会的な背景を理解し、その意義を説明することができる。</li> <li>3. アカデミックリテラシー（大学で学ぶための諸能力）について列挙できる。</li> <li>4. 医療専門職における人文・社会科学系学修の意義について説明することができる。</li> <li>5. 医療において最新の科学的知見や新しい技術を採用する際、その意味と価値を理解しておくことの意義を、全人的医療の観点から説明することができる。</li> </ol> <p>【ICT(WebClass)】 事前学修：岩手医大の HP の「学部」にアクセスし、4 学部の学部案内を読む。「2025 年版岩手医科大学概要」（岩手医大 HP→「岩手医科大学について」→「大学概要」→「2025 年版岩手医科大学概要」）を読む。 事後学修：マインドマップ 1 の課題に取り組む。 [C-1-3-1、C-1-3-2、C-2-1、C-2-3]</p>
4/17	金	1	心理学・行動科学分野 哲 学 分 野	藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授	<p>KJ 法と二次元展開法 [東 2B 講義室]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. KJ 法と二次元展開法について説明できる。</li> <li>2. 指定されたテーマについて、KJ 法と二次元展開法を用いて整理することができる。</li> </ol> <p>【KJ 法、二次元展開法のワーク】 【ICT(WebClass)】 事前学修：スタディ・ナビゲーションの §21 を読む。 事後学修：講義中に取り組んだ、KJ 法と二次元展開法のプロダクトを完成させる。講義で指定された課題に取り組む。 形成的評価：WebClass による「理解度チェック」に取り組み、結果のフィードバックを受ける。 [C-2-1、C-2-3、C-2-6]</p>

5/8	金	3	<p>哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 体育学分野 生物学科</p>	<p>林 研 准教授 三浦 康宏 助教 藤澤 美穂 准教授 香川 由美 助教 廣瀬 清英 講師 佐々木 亮平 助教 松政 正俊 教授</p>	<p>考える技術 [大堀記念講堂] 1. 発言（文章）に含まれる議論の構造、隠れた前提、根拠を意識し、批判的に検討することができる。 2. 情報の精度や妥当性を判断し、適切に取捨選択して活用することができる。 【クリティカルシンキングに関するワーク】【ICT(WebClass)】 事前学修：スタディ・ナビゲーションの§13・§17を読む。 事後学修：講義で指定された課題に取り組む。 [C-2-1、C-2-3]</p>
5/15	金	3	<p>医学教育学講座 心理学・行動科学分野 哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 体育学分野 生物学科</p>	<p>高田 亮 教授 藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 香川 由美 助教 廣瀬 清英 講師 佐々木 亮平 助教 松政 正俊 教授</p>	<p>IPE 講義① 臨床における多職種連携 [大堀記念講堂] 1. 医療現場における多職種連携の実際について理解し、チーム医療に関するメンバーとして必要な態度について説明できる。 【ICT(WebClass)】 事前学修：チーム医療について述べられた書籍や新聞記事等を調べ、読む。 事後学修：講義で指定されたふりかえりワークに取り組む。 [IP-01、C-1-3-1、C-1-3-2、C-1-3-3]</p>
5/22	金	3	<p>心理学・行動科学分野 哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 体育学分野 生物学科</p>	<p>藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 香川 由美 助教 廣瀬 清英 講師 佐々木 亮平 助教 松政 正俊 教授</p>	<p>書く技術 [大堀記念講堂] 1. 主張・根拠・結論を備えた論理的文章を作成することができる。 2. レポートとは何かを説明することができる。 3. レポートの作成方法を説明することができる。 【ロジカルライティングに関するワーク】【ICT(WebClass)】 事前学修：スタディ・ナビゲーションの§16・§18を読む。 事後学修：講義で指定された課題に取り組む。 [C-2-1、C-2-3]</p>

5/29	金	3	体育学分野 心理学・行動科学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	佐々木 亮平 助教 藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 香川 由美 助教 廣瀬 清英 講師	IPE 講義② 地域医療における多職種連携 [大堀記念講堂] 1. 地域医療とは何かについて説明できる。 2. 地域住民の健康を支える保健医療福祉システムの現状を理解し、将来どのようなニーズがあり得るか、自分なりの考えを述べることができる。 ・地域医療における多職種連携について理解し、必要な態度について説明できる。 【ICT(WebClass)】 事前学修：自身の出身地の地域医療に関する新聞記事等を調べ、読む。 事後学修：講義で指定されたふりかえりワークに取り組む。PBL-WSに向け「自己学習課題」に取り組む。 [IP-01、C-1-3-1、C-1-3-2、C-1-3-3、C-4-3-6]
6/5	金	3	教養教育センター 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 哲学分野 哲学分野 法学分野 体育学分野 生物学科	岸田 徹 非常勤講師 香川 由美 助教 藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 廣瀬 清英 講師 佐々木 亮平 助教 松政 正俊 教授	IPE 講義③ 患者・当事者視点から多職種連携を考える [大堀記念講堂] 1. 医療を受ける患者・当事者の体験を理解できる。 2. 患者・当事者視点からみた多職種連携への考えを聞き、今後の自身に必要な態度を列挙できる。 【ICT(WebClass)】 事前学修：患者体験や当事者体験について述べられた書籍や新聞記事等を調べ、読む。 事後学修：講義で指定されたふりかえりワークに取り組む。 [IP-03、C-1-3-1、C-1-3-2、C-1-3-3]
6/8	月	2	附属図書館 心理学・行動科学分野	図書館員 藤澤 美穂 准教授	文献検索演習 [東 2B 講義室] 1. 必要かつ適切な医療情報を図書館やインターネットを活用して収集することができる。 【論文等文献検索に関するワーク】 事前学修：スタディ・ナビゲーションの§11を読む。事後学修：講義で指定された課題に取り組む。 [C-2-1]

6/12	金	3	法 学 分 野 哲 学 分 野 哲 学 分 野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 体 育 学 分 野	廣瀬 清英 講師 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 藤澤 美穂 准教授 香川 由美 助教 佐々木 亮平 助教	マインドマップ1 1. 思考プロセスをミニ・マインドマップで表現し、整理することができる。 【ミニ・マインドマップ作成のワーク】【ICT(WebClass)】 事前学修：スタディ・ナビゲーションの§19を読む。 事後学修：講義で指定された課題に取り組む。 形成的評価：WebClassによる「理解度チェック」に取り組み、結果のフィードバックを受ける。 [C-2-1、C-2-3、C-2-6]
6/19	金	3	法 学 分 野 哲 学 分 野 哲 学 分 野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 体 育 学 分 野	廣瀬 清英 講師 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 藤澤 美穂 准教授 香川 由美 助教 佐々木 亮平 助教	マインドマップ2 1. 思考プロセスをフル・マインドマップで表現し、整理することができる。 【フル・マインドマップ作成のワーク】【ICT(WebClass)】 事前学修：スタディ・ナビゲーションの§19を読む。 事後学修：講義で指定された課題に取り組む。 [C-2-1、C-2-3、C-2-6]
7/3	金	3	心理学・行動科学分野 哲 学 分 野 哲 学 分 野 心理学・行動科学分野 法 学 分 野 体 育 学 分 野 数 学 分 野 数 学 分 野 医学統計情報学分野 医学統計情報学分野 物 理 学 科 物 理 学 科 物 理 学 科 化 学 科 化 学 科 化 学 科 生 物 学 科 生 物 学 科 生 物 学 科 英 語 分 野 英 語 分 野 英 語 分 野 英 語 分 野	藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 香川 由美 助教 廣瀬 清英 講師 佐々木 亮平 助教 江尻 正一 教授 長谷川 大 准教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 准教授 吉田 潤 講師 三枝 聖 准教授 内藤 雪枝 助教 菅 孔太朗 助教 柳谷千枝子 准教授 Jonathan Levine-Ogura 助教 松田 竜宙 助教 Robert Ken Asano 助教	PBL-WS ワークショップ① オリエンテーション pre-iPEG 1 [大堀記念講堂→実習室] 1. 問題基盤型・問題解決型学習とプロジェクト型学習の意義を説明することができる。 2. ワークショップの流れを説明することができる。 3. 医療に関連する多様な職種について理解し、説明することができる。 【グループワーク】 事前学修：スタディ・ナビゲーションの§22を読む。 事後学修：グループでの共同作業に必要な関与の仕方についてふりかえり、課題に取り組む。所属グループ、メンバー、ワークショップ会場を確認し、配布資料を読み直して、ワークショップ③以降の流れを把握する。 [PR-06、CM-05、IP-02、C-1-3-1、C-1-3-2、C-1-3-3]

7/3	金	4	心理学・行動科学分野 哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 体育学分野 数学分野 数学分野 医学統計情報学分野 医学統計情報学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 英語分野	藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 香川 由美 助教 廣瀬 清英 講師 佐々木 亮平 助教 江尻 正一 教授 長谷川 大 准教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 准教授 吉田 潤 講師 三枝 聖 准教授 内藤 雪枝 助教 菅 孔太郎 助教 柳谷千枝子 准教授 Jonathan Levine-Ogura 助教 松田 竜宙 助教 Robert Ken Asano 助教	PBL-WS ワークショップ② pre-iPEG 2 [実習室] 1. 医療に関連する多様な職種について理解し、説明することができる。 2. 岩手医大の学生生活に必要な事項について理解し、説明することができる。 3. 超高齢社会・多文化背景をもつ患者理解・社会的弱者・ヤングケアラー・虐待防止など、社会・文化の変化ならびに多様化に伴うニーズや課題について、ワークを通して理解し、関心をもつことができる。 4. メンバーやチューターとコミュニケーションを取りながら必要な作業を進めることができる。 【グループワーク】 事前学修：スタディ・ナビゲーションの§1～8を読む。 事後学修：グループでの共同作業に必要な関与の仕方についてふりかえり、課題に取り組む。PBL-WSに向け「自己学習課題」を見直し、必要な事項の追加・修正をする。 [PR-06、CM-05、IP-02、C-1-3-1、C-1-3-2、C-1-3-3]
7/10	金	1	心理学・行動科学分野 哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 体育学分野 数学分野 数学分野 医学統計情報学分野 医学統計情報学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 英語分野	藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 香川 由美 助教 廣瀬 清英 講師 佐々木 亮平 助教 江尻 正一 教授 長谷川 大 准教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 准教授 吉田 潤 講師 三枝 聖 准教授 内藤 雪枝 助教 菅 孔太郎 助教 柳谷千枝子 准教授 Jonathan Levine-Ogura 助教 松田 竜宙 助教 Robert Ken Asano 助教	PBL-WS ワークショップ③ [実習室] 1. KJ法と二次元展開法を実践することができる。 【PBL】 事前学修：「自己学習課題」を完成させる。KJ法と二次元展開法のやり方を復習する。 事後学修：グループメンバーによる意見をふりかえり、自分にはなかった新たな視点について調べる。 [PR-06、CM-05、IP-02、C-1-3-1、C-1-3-2、C-1-3-3、C-2-1、C-2-3]

7/10	金	2	心理学・行動科学分野 哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 体育学分野 数学分野 数学分野 医学統計情報学分野 医学統計情報学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 英語分野 英語分野	藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 香川 由美 助教 廣瀬 清英 講師 佐々木 亮平 助教 江尻 正一 教授 長谷川 大 准教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 准教授 吉田 潤 講師 三枝 聖 准教授 内藤 雪枝 助教 菅 孔太郎 助教 柳谷千枝子 准教授 Jonathan Levine-Ogura 助教 松田 竜宙 助教 Robert Ken Asano 助教	PBL-WS ワークショップ④ [実習室] 1. KJ法と二次元展開法をワークショップの課題に応用することができる。 【PBL】 事前学修：「考える技術」で学んだ内容を復習する。マインドマップ手法を復習する。「IPE 講義①②③」で学んだことを復習する。 事後学修：論点の整理についてふりかえり、自分のできていた点と今後できるようにになりたい点を挙げる。 [PR-06、CM-05、IP-02、C-1-3-1、C-1-3-2、C-1-3-3、C-2-1、C-2-3]
7/10	金	3	心理学・行動科学分野 哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 体育学分野 数学分野 数学分野 医学統計情報学分野 医学統計情報学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 英語分野 英語分野	藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 香川 由美 助教 廣瀬 清英 講師 佐々木 亮平 助教 江尻 正一 教授 長谷川 大 准教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 准教授 吉田 潤 講師 三枝 聖 准教授 内藤 雪枝 助教 菅 孔太郎 助教 柳谷千枝子 准教授 Jonathan Levine-Ogura 助教 松田 竜宙 助教 Robert Ken Asano 助教	PBL-WS ワークショップ⑤ [実習室] 1. KJ法と二次元展開法を用いて整理した結果に基づき、グループメンバーで協力してプロダクトを作成できる。 2. プロダクト作成に必要な意見交換ができる。 【PBL】 事前学修：「IPE 講義①②③」で学んだことを復習する。 事後学修：グループ作業への自身の関与の仕方をふりかえり、自分のできていた点と今後できるようにになりたい点を挙げる。 [PR-06、CM-05、IP-02、C-1-3-1、C-1-3-2、C-1-3-3、C-2-1、C-2-3]

7/10	金	4	心理学・行動科学分野 哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 体育学分野 数学分野 数学分野 医学統計情報学分野 医学統計情報学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 英語分野	藤澤 美穂 准教授 林 研 准教授 三浦 康宏 助教 香川 由美 助教 廣瀬 清英 講師 佐々木 亮平 助教 江尻 正一 教授 長谷川 大 准教授 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 准教授 吉田 潤 講師 三枝 聖 准教授 内藤 雪枝 助教 菅 孔太郎 助教 柳谷千枝子准教授 Jonathan Levine-Ogura 助教 松田 竜宙 助教 Robert Ken Asano 助教	PBL-WS ワークショップ⑥ [実習室] 1. グループの検討に基づき、発表することができる。 2. 他グループの発表から、良かった点を列挙することができる。 3. 発表をふりかえり、今後のプレゼンテーションに活かしたい点を抽出することができる。 【PBL】【プレゼンテーション】 事前学修：「書く技術」で学んだ内容を復習し、わかりやすい伝え方の要点をまとめる。 事後学修：ワークショップで明らかになった最優先課題を実現するための改善案を作成する。 [PR-06、CM-05、IP-02、C-1-3-1、C-1-3-2、C-1-3-3、C-2-1、C-2-3、C-2-6]
------	---	---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタディ・ナビゲーション	岩手医大・人間科学科/ 附属図書館編	人間科学科	2026
参	考える・まとめる・表現する	大庭コティさち子	NTT 出版	2009
参	マインドマップ 最強の教科書	トニー・ブザン	小学館集英社プロ ダクション	2018
参	理科系の作文技術 (中公新書 624)	木下是雄	中央公論新社	2002

・成績評価方法

総括評価：課題等により確認する修得度 60%、講義・ワークへの参加・受講態度を 40%として評価する。筆記試験は実施しない。修得度の評価については初回講義、ならびに各回講義でルーブリック等評価基準を提示・説明し、それらに従い採点する。

形成的評価：WebClass より「理解度チェック」を実施し、理解度・到達度を確認する。理解度チェックの結果は WebClass からフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	課題	GW	合計
1～12	1, 2, 3, 5, 8, 9					60		60
1～12 (3を除く)	1, 2, 3, 5, 8, 9						40	40
合計						60	40	100

・特記事項・その他

【講義内容関連事項】

本科目は、一般的な講義に加えて双方向的な対話を適宜取り入れ進行する。また WebClass によるワークやふりかえり入力を求める回を設定する。回答については、内容を踏まえ、翌回以降の講義で解説をおこなう。

考える技術、書く技術、マインドマップ、KJ 法と二次元展開では毎回課題を課し、講義内容の修得度を確認する。

IPE 講義ではふりかえりワーク等を課し、授業の理解度を確認する。

PBL-WS では各グループの作業や意見交換について、適宜チューターがアドバイスをを行い、科目責任者が全体の受講態度に関する講評をおこなう。

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

講義については、シラバスに記載されている講義内容／到達目標を確認し、指定された事前学修課題、及び「スタディ・ナビゲーション」該当箇所を読み予習をおこなった上で臨むこと。事後学修については配付される講義資料等を用いておこなうこと。

各回講義に対する事前学修の時間は 50 分間以上を要する。各回講義に対する事後学修の時間は 150 分間以上を要する。PBL-WS のための自己学習課題作成にあたりさらに 280 分間を確保する必要がある。

成績開示方法：成績確定後、希望者には結果開示と講評をおこなう。

当該科目に関連する実務経験の有無 有：様々な領域の専門家による講義が含まれ、多様な価値観や広い視野に立った物の見方や考え方を学ぶ。国家資格を保持し、保健・医療・福祉現場での実務経験を有する教員が、多職種連携に関する実践例に基づきながら講義をおこなう回が含まれる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air 他)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD (BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac 他)	1	講義資料の作成